

人はなぜウェブ日記・ウェブログを書き続けるのか(2)

山下 清美 (Kiyomi Yamashita)・三浦 麻子 (Asako Miura)

(専修大学ネットワーク情報学部・神戸学院大学人文学部)

ウェブ日記・ウェブログ・継続意向・自己開示・情報提供

問題

ウェブ日記は、インターネットのワールド・ワイド・ウェブ上に個人が時系列的に蓄積するコンテンツとして、1994年頃から登場した。ウェブの普及とともに、ウェブ日記のためのリンク集やツールの開発などによってコミュニティの形成が促され、ウェブ日記は次第に広まっていった。さらに、2000年頃を境に、ウェブ日記を書くスペースを提供するレンタルサービスが急速に増えたことにより、特別な知識や技能を持たない人でも手軽にウェブ上に日記的コンテンツを作成できるようになり、ウェブ日記ユーザは着実に増加した。その後アメリカで開発されたウェブログツールが日本に紹介され、従来のウェブ日記にはあまり関心を持たなかった人々からも注目されるようになり、ウェブ日記・ウェブログというコンテンツは2003年頃から急速に新たな展開を見せている。

筆者らは従来から存在したウェブ日記と最近注目されているウェブログとを、本質的には同じタイプのコンテンツであるとして、ウェブ日記・ウェブログとはどのようなコンテンツか、人はなぜウェブ日記・ウェブログを書いたり読んだりするのか、さらになぜそうしたコンテンツを書き続けるのか、を明らかにすることを目的として本研究を行った。

Kawaura, Kawakami, and Yamashita (1998) は、一般に日記は、その表現内容が事実中心か心情中心か、主として自分に向けて書かれるか読者に向けて書かれるか、のふたつの観点によって、備忘録 (自分に向けて事実を書く)、日誌 (読者に向けて事実を書く)、狭義の日記 (自分に向けて心情を書く)、公開日記 (読者に向けて心情を書く) の 4 タイプに分類できるとしている。そしてウェブ日記の作者 377 名に対する調査から、ウェブ日記にもこの 4 タイプが存在し、その比率は、狭義の日記が若干少ないもののほぼ均等に分かれることを明らかにした。村田 (2003) や菅原・鳴神 (2004) も、ウェブ日記作者に対する調査により 4 タイプの存在を確

認している (ただし質問のしかたが若干異なる) が、比率は Kawaura et al. の結果とは若干異なっている。ウェブログの「輸入」によるユーザ層の拡大により、ウェブ日記・ウェブログの 4 タイプがどのような変化を示しているかを探ることが本報告の第一の目的である。

ところで、ウェブログが注目されるようになったことで、ウェブログとは何か、ウェブ日記とどう違うのかが、しばしば議論されている。例えば、ウェブ日記には個人の身の回りの出来事を比較的淡々と書き綴るものが多いのに対し、ウェブログは社会的なニュースや出来事に言及して意見やコメントを付けるものが多いと言われる。また、ウェブログには、読者が個々の記事に対して直接コメントをつけることができたり、他のウェブログの記事を引用すると相手のウェブログに自動的にリンクを張ってそれを知らせる機能 (トラックバック) があるなど、コミュニケーションを促進する機能が多く備わっていることが特徴とされる。しかしながら、従来のウェブ日記ツールの延長として発展してきた日本のツールやサービスの中にも、読者とのコミュニケーションを促進する機能を有するものはあり、一方で、典型的なブログツールを使っている内容にはきわめて個人的な身近な出来事を扱っているウェブログもある。したがって筆者らは、ウェブログとは何かを定義したり、ウェブログとウェブ日記を区別しようとすることはほとんど意味がないと考えている。しかしながら、ウェブログの特徴とウェブ日記の特徴を連続的な指標 (これを筆者らはブログ度と呼ぶ) によってとらえ、ブログ度の違いに基づいて、ウェブ日記・ウェブログを書く人々や読む人々の意識にどのような差異があるかを明らかにすることは、ウェブログが注目されてユーザ層が拡大変化した現状における日記的コンテンツの役割を理解する上で意味があると考えられる。適切なブログ度の指標を求め、それと作者の意識との関係を明らかにすることが、本報告の第二の目的である。

方法

分析対象者 「はてなダイアリー」ユーザ 1142 名

実施期間 2004 年 3 月 1 日から 3 月 14 日まで

質問項目 (1)ウェブ日記・ブログ執筆状況 (2)同・執筆動機や効用 (3)パーソナリティ・個人特性 (4)ツール等の利用経験 (5)回答者の基本的属性など

調査方法の詳細については、三浦・山下「人はなぜウェブ日記・ウェブログを書き続けるのか(1)」を参照。

結果と考察

ウェブ日記・ウェブログの 4 タイプ

Kawaura et al.(1998)では、「ウェブ日記を書く理由」を 5 つの選択肢(「理由なし」を含む)で問うことにより、4 タイプの分類と対応させた。一方村田(2003)や菅原ら(2004)は、4 タイプの定義そのものにとり、自身のウェブ日記が 4 タイプのいずれに属すると考えるかを選択させる形式の質問を行っている。本研究では、Kawaura et al.の質問と菅原らの質問の両方を行った。以上の研究から得られた 4 タイプの比率を Table 1 にまとめた。Kawaura et al.で備忘録に対応するとされた「日々の生活記録を自分のための覚書として残す」を半数近くが選択している点が注目される。また定義に近い分類から若干の比率の違いはあるが 4 タイプの存在が確認された。

Table 1 ウェブ日記・ウェブログの 4 タイプ (%)

	Kawaura	本研究 1	本研究 2	村田	菅原ら
備忘録	24.4	47.4	24.3	8.7	8
日誌	24.1	18.7	19.4	28.5	21.2
狭義の日記	14.3	11.9	22.1	15.7	32.7
公開日記	23.1	9.9	34.3	47.1	36.3
理由なし	13.3	12.1	----	----	----

本研究 1 は Kawaura と同じ、本研究 2 は菅原らと同じ質問

ブログ度と人間 情報指向

5 つの項目(日記・ブログの記録単位がトピックか日付か、記録内容は社会的か個人的か、分類カテゴリは必要か不要か、他の日記・ブログへの言及は必要か不要か、内容理解のための作者プロフィールは必要か)の得点(各 1-5)を合計してブログ度とした。性別のブログ度の平均値は、男性(14.37)の方が女性(12.94)よりも有意に高かった。

次に、得られたブログ度の分布をもとに、ブログ度の異なる 3 群を設定した(Table 2 参照)。調査したいくつかの変数を 3 群間で比較した。更新頻度はブログ高

群でやや高いが、更新時間や 1 回の記述量は 3 群でほとんど変わらない。また日記・ブログを書くことによる負担感や書き続けようとする継続意向には、ブログ度による差はなかった。4 タイプとの関係では、ブログ度高群はやや日誌が多く狭義の日記が少ない傾向が見られた。

Table 2 ブログ度の 3 群

	ブログ度の値	人数
高群	15 以上	373
中群	12 以上 14 以下	424
低群	11 以下	345

読者が自分の日記・ブログを読みに来る理由が、書き手(人間)への興味か、提供する情報への興味かの回答の比率と、自分が読者として他の日記・ブログを読みに行く理由が、書き手(人間)への興味か、提供する情報への興味かの回答の比率を、それぞれブログ度群ごとに示したのが Table 3 と 4 である。

Table 3 読者の自分の日記・ブログへの興味(ブログ度別%)

	高群	中群	低群
人間に興味	26.0	39.1	59.4
情報に興味	74.0	60.9	40.6

Table 4 他の日記・ブログを読む興味(ブログ度別%)

	高群	中群	低群
人間に興味	35.7	39.1	57.4
情報に興味	64.3	60.9	42.6

ブログ度高群は、読者は情報に興味があって自分の日記・ブログを読みに来ていると考えているのに対し、ブログ度低群はどちらかという書き手に興味を持たれていると考えている。他の日記・ブログを読みに行く場合も、同様に高群は情報指向、低群はそれに比べると人間指向、という違いが見られた。ブログ度という指標は、人間指向か情報指向かという書き手(読み手)の意識の違いと関連が見られた。

参考文献

Kawaura, Y., Kawakami, Y., and Yamashita, K. 1998 Keeping a diary in cyberspace, Japanese Psychological Research, 40, 234-245.
 村田佳世子 2003 Web 日記コミュニケーションのもたらす心理的効用に関する研究
 菅原健介・鳴神順子 2004 Web 日記行動とその心理について